

松陵

秋田県立能代高等学校同窓会
事務局
〒016-0184 能代市高城2-1
能代高等学校内
TEL 0185-54-2230
FAX 0185-54-2231
題字は神馬前会長

同窓会員の皆さんへ



同窓会長 田中仁純

(第二十五期)

能代高校同窓会員の皆さんには、ご健勝にてお越しのこととお慶び申し上げます。今年、台風、地震と相次ぐ災害の年でありました。会員の皆さんのなかには、直接・間接に影響を受けられた方がおられるのではと心配しております。県内も台風による塩害等で近年まれにみる不作で、来年以後の経済に与える打撃が心配されるところです。

このような条件下でも八十周年事業の寄付金は目標の七〇〇万円を突破出来ました。これも会員皆さんの母校を愛する気持ちの発露の賜と感激しているところです。実行委員会を代表して、厚くお礼申し上げます。

これによって事業計画がスムーズに運営出来るものと確信致しております。今後実行委員会では、学校当局と綿密な連絡の上、充実した内容の記念事業に致したく努力する所存です。どうぞ、よろしくご協力下さい。



「新たな課題」

校長 菊谷 一

会員の皆様には母校の教育振興と在校生の激励のために平素から特段のご支援を賜り、また来年の創立八十周年を迎えるに当たり様々なお立場でご協力を頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

文武両道を標榜する本校は、学習面での一層の強化を図るべく、今年度から二学期制を導入しました。進路状況については、四大への進学率は持ち直したものの、志望の多い国公立大への進学者数は漸減しており、諸事業を見直し対応を検討しているところです。一方、部活動については、各分野

で目覚ましい活躍が相次ぎましたが、中でも弁論部のダイヤモンド甲子園準優勝は特筆に値するものでした。

テーマ「素」のもとで開催された第四十五回能高祭は、生徒一人一人の個性を尊重しつつも一体感が強く感じられる素晴らしいものでした。また、第五十七回十里強歩大会は南回りコースで行われ、天候にも恵まれ例年になく早いペースで進み、生徒達はまた一つ忘れぬ思い出を加えることになりました。

厳しい社会情勢の中で、県は「あきた教育新時代創生プログラム(素案)」を発

表しましたが、その中には能代市内五校の高校統合整備計画も含まれております。また少子化の進む中、本校も来年度入学生から一学級減を余儀なくされます。これらの新たな課題にも早々に対処しなければなりません。

入試制度が大きく変わり全県一進学区となる来年度からは、従来とは違う意味で本校の真価が問われることとなります。本校の歴史と伝統を踏まえつつ、新設の理数科における成果も視野に入れながら将来構想を検討し、魅力ある学校づくりに尽力する所存です。

今後とも母校へのご声援をお願いいたしますとともに、能代高校同窓会のご発展と会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

平成十七年 能代高等学校同窓会新年会のご案内

日時：平成十七年一月二十八日(金)

受付：午後五時より

講演会：午後五時半より

会場：料亭「金勇」

(能代市柳町 電話〇一八五―五五―三三五)

◆会費四〇〇〇円(当日持参)

※当番幹事は四十四期(新制二十六期)です。参加申し込みは各期幹事、または同窓会事務局へ連絡してください。

同窓会事務局(能代高校内) 電話(〇一八五)五四―二三三〇

FAX(〇一八五)五四―二三三一

恩師探訪

能代高校において教鞭をとられた先生方に当時の思い出を綴っていただく「恩師探訪」のコーナー。今回は大高芳雄先生に筆を振るっていただきました。



回想

大高芳雄先生

昔、能代においては高度の知識を修得するよりも先ず手に職をつけることが重要だと考えられていたため、中学校の設立が遅れたという事情があった。昭和四年ようやくその機運が高まり、磐若町の工業講習所で能代中学と能代工業が同時に発足した。その開学に合わせるため入学を待機している人もいたという話を聞いたことがある。

私と能代高校との関わりは、昭和二十四年、今は亡き島津、市川両先生と共に能高に奉職したことに始まる。以来三十五年に亘る教員生活の中で、実に二十年という長い年月を能高と共に過ごすことになった。私にとつ



故 武田重蔵先生と東京オリンピック村で
小野 高氏(林挿)、菅原貞敬氏(バレー)

て何といつても思い出深いのは五回(七期・九期・十三期・十七期・十九期)の学級担任を経験したことである。この頃から能高は徐々に進学校という傾向が色濃くなってきた。当時既に業者テストが利用されていたが、私はタイガー計算器とそろばんを併用して偏差値を計算し、全県にさががけて進学資料を作成していた。生徒には単に成績を見て、どこの大学へ入れるかを探すのではなく、真に自分が学びたい分野を見つけることこそが大切

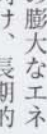
だと言ってきた。幸いなことに私が関係した各期からは生徒会に代々優れたリーダーを送り、また学業とスポーツの両立をはかる「仕事師」ともいべき生徒達がいた。彼等にとつて毎日のすべてが発見であり、これを分析して課題を解決していたからこそ、バレー部、体操部二種目同時全国優勝という栄冠をかち得たのだと思う。要領よく得点を稼ぐ者は接戦には勝てない。自分で苦労して体得したものは蓄積されて、次第に身についてくるものと思われる。

もうひとつ在職中の思い出として特に印象深いのは、北高職員チームとのバレーボールの親睦試合のことである。当時両校が隣接していたこともあり毎年の対戦を楽しんでいた。女子高校の職員には負けるなどという声援に送られて、中村史郎先生と私はいつも前衛のコンビを組み、中村先生からの絶妙かつ正確なトスを私がスパイクを決めるといふパターンで完勝していた。

過ぎし時代、能高というエネルギーに満ちた場所に、教師として身をおくことができたことに改めて心からなる感謝を捧げます。

同窓生から

「最近感じたこと」



原 田 和 夫
(第二十六期)

昨今、石油価格の高騰が世界的問題となつてきている。将来のエネルギー不安から石油買占めにより価格が高騰しているのである。中国でも大慶油田の枯渇がささやかれている。そのような中、日本は石油輸入に關し明確なビジョンを出せていない状態が続いている。現在、サハリンでは「サハリナー」から「サハリナー6」までの石油、天然ガスプロジェクトが稼働に向けて着々と進んでいる。また、石油メジャーからの受注を受け、オハ市沖合いから海底パイプラインおよび、陸上ルートを通じ、日本へ輸送する案も検討されている。このような大きなプロジェクトが民間主導で進んでいることは非常に素晴らしいことである。小生も実際、今年九月末に現地に赴き實際稼働中の石油基地プラントホームでの掘削現場を見させてもらった。日本企業の活躍を感じた次第であり、今後のロシアの膨大なエネルギー資源獲得に向け、長期的戦略を持ちながら日本の積極的なチャレンジを切に願うものである。



「樽子山で」
戎屋 鉦 希
(第四十四期)



能代高校の校歌にある「平和の姿樽子山」という一節に何を思うでしょうか。私たちが四十四期にとつては、感慨深いものがあります。あの樽子山での最後の卒業式にのぞんだ期だからです。先輩達の熱い思いが刻まれているような教室や廊下の柱や壁板、「能中」と白く彫られた窓ガラス、時代に取り残されたような大きな薪ストーブなど、いつまでもまぶたの裏に浮かんできます。今のような設備が整ってはいなくて、決して学習環境が良いとは言えませんでした。が、勉強をする場所として「学舎」という言葉が最も相応しい木造校舎でした。その存在さえもあまり知られていなかった

在学当時のことといっても、卑近なことを漠然としか思い出せないが、たまたま現在本校に勤務しており、在学当時との違



関道弥 (第五十四期)

「天下第一」を期して

樽子山のかつての校舎の跡地には、能代市文化会館や図書館などの建物があります。敷地の周囲にある桜の並木は私たちが通っていた頃に比べると幹が太くなり、枝も大きくなっています。しかし、春には、かつてと同じように美しい花を咲かせて、見せてくれています。来春は樽子山を卒業して三十年目の春を迎えます。

昇降口脇の階段下の新聞部の部屋で過ごした三年間が私の青春の大きな時間を占めています。私たちが四十四期は、もうひとつ、能代高校の歴史の中で、最初で最後の一度だけの貴重な経験をしています。修学旅行で香川県の金比羅宮まで行ったことです。岡上に泊まり、四国に渡り、金比羅宮の階段を上り、琴平町で眠り、高松を見て、京都、奈良を駆け足で回り、東京で少し自由時間を過ごすという、大修学旅行を体験しました。忙しい旅で、宿を朝早くに出て、夜遅くに着くという毎日で、常に動いていたことと金比羅宮の階段が長かったという印象が強く残っています。

「創立80周年記念事業」中間報告

(1) 「記念式典」「祝賀会」の日程変更について

平成16年11月5日、第2回創立80周年記念事業実行委員会を開催いたしました。諸般の事情を考慮し、下記のとおり決定いたしました。

- ① 「記念式典」 平成17年9月17日(土) 午後1時以降 能代高等学校第一体育館
- ② 「祝賀会」 平成17年9月17日(土) (式典終了後) キャッスルホテル平安閣 (能代市元町)

(2) 「記念事業寄付金」について

記念事業寄付金は、おかげさまで目標額700万円を超えました。

同窓生各位のご支援に、心より御礼申し上げます。平成16年11月10日現在、下記の通りとなっておりますのでご報告いたします。

- ① 「ご寄付者数」 1,061名
- ② 「ご寄付金額」 7,301,611円

ご寄付金につきましては、趣意書の事業計画のとおり、「500万円」を「創立80周年記念事業」への「寄付金」、残金については「趣意書印刷費」「通信費」などの「事務費」として支出いたします。

「事業報告」および「決算報告」は、平成17年9月17日以降となりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会事務局

いを感じることもあるので幾つか述べてみたい。(もし本校に勤務することもなく、県外に暮らしていたならばそのイメージはほとんど固定したままだったと思う)。

なんとと言っても御案内の通り本校の目の前には大型ショッピングセンター。便利であるのは結構だが、学園通りとは到底思えない賑やかさである。「アークロス高校」とのあだ名?が囁かれていますという話を聞いた時には、簡便さを求めがちな昨今の生徒気質のイメージも重なり、そのネーミングの妙に感心してしまいました。また列車から校舎を見ることが出来なくなったのはなぜかしら物足りない感じもする。在学当時には全く想像できなかったことである。以下思いつくまま拾い上げると、主にハーブ面では生徒用の自転車置き場や植え込み、アスファルトの敷かれた駐車場、保健室隣

の情報処理室、電算化された図書等が整備された。その一方、職員用の自転車置き場、職員室入口の公衆電話がなくなった。また、主にソフト面では一コマ五十五分の授業。学生靴を持つ生徒がごく少数で、携帯電話の使用が多数であること、夏季休業中の課外授業時に三年生だけとはいえ、教室にクーラーを借り入れておくこと。それからクイズ研究会やプロレス研究会等がなく一方女子バレーボール部や女子バスケットボール部同好会の設立される等、実に多様な変化が見られ、母校にいることを忘れるほどである。

このように郷愁に浸るのは難しくなっているものの、本校は年々多くの面で改善がなされ、便利になっている。後輩達にはその恵まれた環境を生かし「天下第一」(二高校長、阿刀田令造氏揮毫、校長室蔵)を胸に各分野での活躍を期待したい。

同窓会会計報告

I. 経常費 収入の部

平成15年度分(平成15年9月4日より平成16年9月9日まで)

項目	15年度予算額	15年度決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	68,261	68,261	0	前年度より繰り越し
2 入会金	1,257,600	1,257,600	0	4,800円×262名
3 会費	2,200,000	2,205,720	5,720	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	3	82,303	82,297	料金後納郵便担保金
合計	3,525,864	3,613,884	88,017	

同窓会経常費予算

(1) 収入 平成16年度分

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 繰越金	4,749	68,261	▲ 63,512	
2 入会金	1,363,200	1,257,600	105,600	4,800円×284名
3 会費	2,200,000	2,200,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	3	3	0	預金利息など
合計	3,567,952	3,525,864	42,088	

(2) 支出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
1 会議費	580,000	600,000	▲ 20,000	総会等補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 卒業関係費	110,000	104,000	6,000	入会記念品
4 通信印刷費	1,850,000	1,800,000	50,000	会報印刷、発送費ほか、新聞広告
5 事務費	500	1,000	▲ 500	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	7,452	864	4,582	
合計	3,567,952	3,525,864	42,088	

支出の部

項目	15年度予算額	15年度決算額	比較増減	摘要
1 会議費	600,000	551,757	▲ 55,963	総会・新年会補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	0	▲ 20,000	電報、香典
3 卒業関係費	104,000	102,207	18,207	入会記念品
4 通信印刷費	1,800,000	1,955,091	131,591	松陵発送、案内はがき、新聞広告
5 事務費	1,000	80	▲ 920	ネームケース
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	864	0	▲ 864	
合計	3,525,864	3,609,135	83,271	

差引残高 収入3,613,884-支出3,609,135=差引残高4,749(次年度へ繰り越し)

II. 基金

種類	平成15年度元金	平成16年度元金	摘要
1 秋田銀行積立	28,465,549	29,101,167	入会会金628,800(2,400円×262名)
2 郵便局	6,734,988	6,741,630	
合計	35,200,537	35,842,797	

理数科始動!!

母校は今...



14年度に初めて募集した本校理数科は、くくり募集のため、一年次は全員同じ科目を学習し、2年次進級時に自分の進路に応じた学習ができるよう、普通科文型・普通科理型・理数科(1学級)に分かれる。今回は本年度から始動した本校の理数科42名の活動を紹介したい。

まず、カリキュラムは右下のとおりである。その中で理数科独自の科目として、「課題研究」が設定されているが、これがなかなかユニークである。興味・関心に応じていくつかのグループに分かれて、実験・研究する科目だ。校内の先生はもちろん、県立大学の先生にも協力を仰ぎ、休日返上で取り組んだ。その結果をまとめる校内発表会が十月上旬に開催されたが、それぞれの班が苦勞しながらも活き活きと活動する姿が見られた。これを経て、県理数科研究発表会に向け、さらに研究を続けることになっている。(写真は校内発表会の様子である)。初めての取り組みであるこの発表会に取り組んだ生徒たちに、感想と理数科に対してインタビューしてみた。

Q 発表会はどうでしたか?
A いつも見ている仲間がお互い立派な発表を行い、隠れた実力に対して再認識できた。
・授業では学べない内容があり、難しかったが、その難しさもまた

Q 理数科を選択してみようですか?
A 楽しかった。
・質問も着眼点が鋭く、さすが理数科と思った。
・他のクラスと異なる行事があり、忙しいことは辛いかもしれない。初めはついていけないか不安だったが、自分のやる気に好影響を与えてくれた。
・クラスみんなが進学目標なので、勉強する雰囲気があり、自分は刺激を受けている。
・周囲の高い期待が最初は不安だったが、クラスもそんなに堅苦しくなく面白いので楽しい。
など総じて高い意識と充実感の伝わってくる内容が多かった。彼らのやる気は大いに期待できると感じる。最後に理数科主任は、「課題研究は理数科最大の特徴。これを通して他校と交流し、激しく質疑応答が交わされる。その中で自然へのアプローチのし方を理解し、探求心が培われる。未来を担う若者が育っている」と実感する。」と結んだ。最後に校内発表会での各班のテーマを紹介して、理数科の紹

平成15年度入学生 (理数科)

各教科・科目	標準単位	第1学年 単位数	第2学年 単位数	第3学年 単位数
国語表現I	2			
国語表現II	2			
国語総合	4	5		
現代文	4		2	2
古典	4		2	2
古文	4			
世界史A	2	2		
世界史B	4			
日本史A	2			
日本史B	4			
地理A	4			
地理B	2		2	2
現代社会	2	2		
政治	2			
経済	2			
体育保健	7~8	3	2	2
保健体育	2	1	1	
音楽	2			
美術I	2	2		
美術II	2			
英語I	2			
英語II	2			
ライティング	4		2	2
ライティング	4		2	2
基礎総合	2		2	
家庭技術	4			
情報A	2			
情報B	2			2
情報C	2			
理数数学I	4~6	6		
理数数学II	8~10		5	5
理数数学探究	4~8		3	4
理数物理学	4~8			
理数化学	4~8	4	1	3+2+2
理数生物学	4~8			3+3
理数地学	4~8			
課題研究			1	1
教科単位数計		30	33	33
ホームルーム		1	1	1
総合的な学習の時間		1	1	1
合計		32	35	35
備考		55分6コマ授業	55分6コマ授業4日	50分7コマ授業1日

- 県立大学の木高研の指導の元「木材の生物劣化」
- 「杉心材の成分の最新機器による分析」
- 校内数学班より「連続量と確率」
- 「四次元正多辺形の三次元への投影」
- 同物理班より「虹の制作」
- 同科学班より「ガリレオ温度計の研究」
- 同生物班より「大腸菌を用いた遺伝子組換え実験への取り組み」



進路状況一覧

平成16年4月最終集計

種別	卒業年		卒業生総数
	平成16年3月	平成16年4月	
大学	147	115	262
短大	64	41	105
進学	8	7	15
小計	84	93	177
専修学校・各種学校等への進学	18	12	30
就職者	9	2	11
未決定者(その他を含む)	36	8	44
合計	147	115	262

※くくり募集により、理数数学I(6)、理数化学(4)は読み替え。
※「課題研究」は学校設定科目。ぶら下がり、まとめ取りで実施。

部活動の記録

今年度も能代高校生は、校是である「文武両道」の達成を目指して各分野で活躍を示しました。今年度の運動部・文化部の活動状況の概略をご報告いたします。なお、個人成績は紙面の都合上、各部から特筆すべき成績のみを報告していただきました。

運動部の活動状況

文章内の番号は、以下の大会の種類を表しています。

- ①平成十五年度春季県北総体
- ②同春季全県総体
- ③同東北総体
- ④国体・インターハイ
- ⑤その他

- 硬式野球部**
- ①一回戦敗退
 - ⑤甲子園予選ベスト8
- 軟式野球部**
- ②一回戦敗退
 - ⑤北東北予選 ベスト4

- ソフトテニス部 (男子)**
- ①団体準優勝
 - ②団体三位
- (個人2ペア東北大会出場)

- ソフトテニス部 (女子)**
- ①団体二回戦敗退

- 山岳部**
- ①男子 能代B 三位
 - ②女子 能代A 優勝
 - ④女子 能代A 十八位

- サッカー部**
- ①二回戦敗退
 - ②二回戦敗退

- バスケットボール部 (男子)**
- ①四位
 - ②一回戦敗退

- バレーボール部 (男子)**
- ①五位
 - ②一回戦敗退

- バレーボール部 (女子)**
- ①ベスト8
 - ②二回戦敗退

- 卓球部**
- ①男子団体優勝
 - 個人複 優勝 細田・石田
 - 個人単 優勝 厚木・浅野
 - 準優勝 浅野俊平
 - 三位 厚木克矢
 - 石田雄太

- ②男子団体ベスト8
- 女子団体一回戦敗退

- 柔道部**
- ①男子団体優勝 個人優勝 三人
 - 女子団体優勝 個人優勝 三人
 - ②男子団体準優勝 個人優勝 二人
 - ④女子団体ベスト8 (優秀校受賞)

- 剣道部**
- ①男子団体優勝 個人優勝 佐々木峻輔
 - ②男子個人五位 石川慶一 (東北大会出場)
 - ⑤ミニ国体秋田県代表 佐々木峻輔

- 陸上競技部**
- ②男子円盤投二位 伊藤好史
 - 八種競技優勝 船山鉦二
 - 男子四百米障害二位 段位百十米障害三位 米川恭兵
 - 男子四〇〇MR六位

- 水泳部**
- ②男子五〇m自由型七位 齊藤祐也 (東北大会出場)

- 空手道部**
- ①男子団体組手優勝 個人形優勝 牧野圭将
 - 準優勝 田森浩康
 - 女子団体組手準優勝 個人形準優勝 田畑 麗
 - ②男子個人形優勝 牧野圭将
 - 女子個人形準優勝 田森浩康

- 女子団体組手準優勝 個人組手 米屋美吉
- 以上 東北大会出場

- 体操部**
- ②団体優勝 個人三位 高橋弘太郎
 - 以上 東北大会
 - インターハイ出場

- 文化部の活動状況**
- 女子バスケットボール同好会
 - ①ベスト8
 - ②一回戦敗退

- 演劇部**
- ・県北地区高校演劇合同発表会
 - ・能代山本地区高校演劇秋季コンクール参加

- 吹奏学部**
- ・県北地区大会 銀賞
 - ・第四十二回定期演奏会 (六月)
- 写真部**
- ・秋田県高校写真連盟展 (六月)

- 美術部**
- ・秋田県美術展覧会 (七月) (入選)
 - 洋画部門 篠田知世
 - デザイン部門 若狭一輝
 - 村岡有希

- 放送部**
- ・秋田県高校放送コンテスト
 - 総合 銀賞
 - ラジオドキュメント部門 優秀賞
 - テレビドキュメント部門 優秀賞
 - 研究発表部門 優秀賞
 - 創作ラジオドラマ部門

- 茶道部**
- ・能高祭お茶会開催 (六月)
 - ・高校総合文化祭参加 (十一月)
- 書道部**
- ・全県席書大会 一等 四名
 - ・秋田県書道展覧会 三等 田中泰代
 - 褒状 原田 郁・中田由貴子
 - 保坂篤子・保坂洵子

- JRC**
- ・各種ボランティア等多数参加

- 囲碁将棋部**
- ・高校囲碁選手権戦秋田大会 男子団体戦 一位
 - ・全国高校囲碁選手権大会 男子団体 予選敗退
 - ・全国高校総合文化祭囲碁部門 秋田県主将 佐藤夏希
 - ・全国高等学校将棋竜王戦 男子個人 大塚 健 (二回戦進出)

- 新聞部**
- ・校友時報二六三号発行
- 弁論部**
- ・東北地区 高校ディベート選手権 優勝
 - ・全国高校ディベート選手権 準優勝

- 無線部**
- ・秋田県AROF競技大会 学校対抗 二位
 - 女子個人 一位 山崎真奈
 - 二位 平川彩香
 - 三位 清水美貴

支部だより

近畿支部

あの感動をもう一度!

事務局補佐 清水 勇幸雄
 母校、能代高校硬式野球部の甲子園球場、軟式野球部の明石球場への全国大会出場を毎年待ちがれています。もう何年待ってるんやろか!たいぶ昔のよな気がする。

一昨年十月十日、大阪の御堂筋パレードに能代七夕が参加するということで、住吉若の袴田氏にご無理をお願いし同窓生六名が太鼓や引き手、廻りでにぎやかに応援の大阪市信用金庫のギャルと一緒に楽しんだ。終了後、JR梅田近くの曾根崎にある料亭多幸梅(能代市常盤出身田中タミエさん経営)で打ち上げ。年一回同窓会を開催しました。今年は、何にも行事がないので中止と思いきや、近畿秋田県人会恒例のキリタンボ会が十一月二十七日(土)多幸梅で開催。我が能代高校同窓会も相乗りで参加した。今回ももちろんまりと五人の参加でしたが、盛況であった。

話題と言えば先般、甲子園・明石に出場した時の事。同窓会主催の祝勝会?残念会?でのピールはこでえらえねがつたすヨ!来年こそ、母校が甲子園、明石に来ることを願っている。もう一度皆で乾杯したいものだ。近畿地区の、同窓生の把握ができていないのが現状。最新の同窓会名簿がもうじき出来るの

でそれをたよりに地道に掘り起こしを図りたいと思う。またこ子息や同級生が近畿在住の同窓生をご存知の方は、能代高校に連絡お願いします。

東京同窓会

会長 畠 豊彦

東京同窓会総会・懇親会は十月二日に市ヶ谷アルカディアで開催し、講演会は国際的にも活躍している建築家の納谷学(四十九期)・納谷新(五十四期)兄弟。CD写真で作品を紹介しながら自分達の建築感について熱く語ってくれました。懇親会は担当期幹事が歌やクイズなどで盛り上げてくれました。五輪イヤーにちなみ能代高出身で五輪に出場した選手名?小野高先輩が獲得した金メダル数?能代高が全国制覇したスポーツは?など意外と知らない人がいました。本年は会員の参加者がやや減りましたが各期で一名ずつ誘って来てくれればいいなあと思います。写真は、自分のお店で東京同窓会への寄付金を集めてくれた菊池さん(四十三期)を関根副会長が紹介しています。

北海道支部

北海道支部活動報告ほか

大槻 政哉

今年度は十二月四日に北海道支部総会を実施する予定である。これまで幹事を務められてきた佐藤先輩に代わり、若輩者ではあるが、今年度の幹事を仰せつかった。なかなか若い世代の参加が叶わず、忙しい日常の中ででの仕事で、盛会となるのか

否かなり不安なところでありますが、北海道に住む同窓の先輩諸氏のためにも、自分の中で能代高校、能代との繋がりを維持していくためにも、がんばりたい。

私事ではあるが、正月には久しぶりの里帰りをしようと思っっている。来年も何事にもがんばっていきけるよう、しばし休息し、能代高校時代の友人に会い英気を養いたいと考えている。



昨年度総会で校歌を歌っているところです

県庁能高会

「県庁能高会」のいっ

県庁支部長 小野 公生

五十九期笠井仁志君(建設管理課)、六十六期渡邊潤君(畜産試験場)、七十期佐藤智子さん(衛生科学研究所・薬剤師)を新規会員に迎え、会員総勢二百五十二名。(本庁等百七十六、鹿角十二、大館五、北秋田十五、山本二十三、由利三、仙北十、平鹿五、雄勝三)

毎年の活動状況は総会、新年会等が中心。各行事には、大勢の会員が集い、OBの顧問等、母校の校長先生、同窓会長等を

交え、相互の親睦と連帯感を深め、盛大に開催している。

昨年十五年六月の総会時には、「中日山田監督を囲む会」を併せて開催。同監督の抱負を直に聞ける等大好評だった。いつものメンバーの他、同窓会秋田支部、PTA、松陵会(硬式野球部OB会)等にも呼びかけ、百三十名近い参加者でにぎわった。

ニツ井支部

ニツ井支部復活二年

ニツ井支部長 豊 澤 幸 夫

二十年間も眠ったままになっていた同窓会ニツ井支部が、昨年十月、眠気を払って復活しました。五十七名が集まりました。応援歌を忘れもしないで高吟し、精神年齢をぐっと下げて談じあいました。

復活二年目の今年も十月開催、三十数名の激減総会になりました。でも、なかなか散会の発声を出しがたい程の盛り上がり



りがあり、継続の土台が出来たのを感じました。以後、意見を集めて、楽しい、オアシスにも

似た同窓の集いにしたいものと話し合っています。

八竜支部

母校への想いは熱く

八竜支部長 畠 山 洋一

八竜支部は、結成以前においては、母校の硬式野球部が甲子園出場を決めた際に、同窓生を中心に寄付を集めることと応援すること親睦を深めてきました。

そして、平成四年の甲子園出場の際に、機運が盛り上がり、平成五年七月に設立総会を開催し、正式に発足しました。その後、会員の親睦と情報交換を図ると母校事業の支援などを目的に活動してきましたが、やはり甲子園出場など大きな事業がないとなかなか盛り上がりがない状態です。

しかし、会員の母校に対する想いは熱く、母校の活躍を心から願っているところです。

◎松陵委員会から

今回「松陵」第十六号を発行するにあたり、原稿をお寄せいただきありがとうございました。今号は例年どおりの発行となりました。ご好評いただいた「恩師探訪」「同窓生から」のコーナーは今後も継続していく予定です。

さて、「松陵」では引き続き同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。在学中の思い出や母校への想い、または、各支部・各期同窓会の報告等、お送りください。同窓生の絆をいっそう深める同窓会誌「松陵」の紙面充実のために、協力をお願いします。なお、原稿の送付先は能代高校内同窓会事務局まで。